**会費の考え方　その２**

**1. 費用負担の公平性の考え方**

**① 従量課金制の導入**

* **利用頻度に応じた料金設定**を導入し、頻繁に利用する医療機関とほとんど利用しない医療機関で負担を分ける。
* 例えば、「基本料金＋使用量に応じた従量課金」にすることで、利用が少ない人の不満を軽減できる。・・・しかしこれは複雑で実際には向かない制度です。

**② グループ別の会費設定・・・これを今回は導入しています。**

* 利用規模や診療科目に応じて、**段階的な会費**を設定する。
  + 例）「大規模病院（高頻度利用）→高めの料金」「クリニック（低頻度利用）→低めの料金」
* 利用しやすい価格帯を設定することで、不公平感を減らす。

**2. EHRの利用価値を高める**

**① 使いやすさの向上（UI・UX改善）**

* 「あまり使われていない＝使い勝手が悪い」可能性もあるので、**操作性の向上や簡易マニュアルの提供**を行う。
* 定期的な**研修会やサポート窓口**を設け、利用しやすい環境を整える。

**② 参加者へのメリットを増やす**

* **EHRを利用することで得られる具体的なメリットを明確化**し、情報共有を強化する。
  + 例）EHRを活用すると、診療報酬の加算がある／業務効率が向上するデータを提示する
* 利用頻度の少ない医療機関向けに、「EHRの活用方法を提案する」コンサルティング支援を行う。

**③ PHRとの連携で患者側の活用を促進**

* 医療機関だけでなく、患者がEHRを活用できる仕組み（PHRとの連携）を進める。
* **患者自身がデータを活用できると、医療機関側も恩恵を受けやすくなる**ため、全体の価値が上がる。

**3. システムの運用方法を見直す**

* 一部の利用者に負担が偏らないように、国や自治体の**補助金や支援を活用**する。
* 長期的に見て、EHRが標準化されれば、コストを抑えつつ広く普及する可能性がある。

**結論**

✔ \*\*「費用負担の仕組みを見直す」＋「EHRの利用価値を向上させる」\*\*ことで、不公平感を減らしつつ参加者の満足度を高めることが重要になります。  
✔ 特に、**グループ別会費の導入、EHRの活用支援、PHRとの連携**が有効な対策になる。  
✔ **国や自治体の支援も活用しながら、持続可能な運営モデルを検討することが鍵**になる。

会費負担の意味は？

**EHRシステムは個々の医療機関の直接的な利用頻度だけでなく、地域全体の医療の質向上に貢献している**という視点を、会員の方々に理解してもらうことが重要です。

**1. 「会費＝地域医療の支え」という意識がとても大事になります。**

個々の医療機関が直接頻繁に使わなくても、**地域の医療システム全体の維持・発展に貢献している**ことを丁寧に伝え理解してもらうことが必要です。

**① 具体的な「恩恵」の可視化**

* 「このシステムがあることで、地域全体でどのようなメリットが出ているのか」を定期的にデータとして示す。
  + 例）
    - 地域での**重複検査の削減**により、患者負担が減少した
    - 診療情報共有により**救急搬送時の対応が迅速化**された
    - **医療連携がスムーズになり、診療時間の短縮**につながった
* 「自分の医療機関が直接使っていなくても、自分の患者さんが他院で恩恵を受けている可能性が高い」という事例も紹介しないとわからない場合が多いと思われます。

**② 「システム維持に貢献している」という誇りを持ってもらう**

* 「皆さんの会費が、この地域の医療を支えています」というメッセージを明確に伝える必要もあります。
* **「地域医療の発展のために参加することが、結果的に自分の医療機関にも良い影響をもたらす」** ということを理解してもらうことが大事です。

**2. EHR参加のメリットをさらに強化する**

「損をしている」と感じる人が多い場合、EHRの直接的なメリット少しづつ増やすしていくことも必要です。

**① 低頻度利用者向けの活用サポート**

* **「あまり使えていない医療機関」のために、EHR活用法を個別提案**する。
  + 例）定期的なフォローアップ、活用研修、具体的なケーススタディを提供
* 「使いこなせていないだけで、本当はメリットがある」と気づいてもらうことも大事。

**② 会員特典の設定**

* **EHRを活用した診療報酬の加算**（行政と連携できる場合）
* **EHR利用者向けの割引や補助**（例えばシステム更新費用の補助など）

**3. コミュニケーション強化**

* 定期的に「EHRがどのように役立っているか」の**報告会**を開く。
* 「この地域の医療機関全体が支え合う仕組みであり、今は使っていなくても、いずれは自分の医療機関も助けられる可能性がある」ことを伝えることも必要です。
* 不満を持っている人も多いと思うので、それぞれの意見をヒアリングし、「どうすればより価値を感じてもらえるか」を一緒に考える。

**結論**

✔ **「地域の医療を支えている誇り」を持ってもらうために、具体的なメリットや貢献度を可視化する。**  
✔ **低頻度利用者向けに活用方法を提案し、「損をしている」感覚を減らすことが大事。**  
✔ **会費の意義を理解してもらうため、積極的な情報発信・コミュニケーションを強化する。**

**「会費＝地域の医療を守るための投資」ということを理解してもらう、意識を持ってもらう事がとても重要なことです。**・・・・以上のようなことを考えながら、長年に渡って皆さんに使用してもらうために利用料金検討委員会では会議を重ねながら運営しています。皆さんのご理解、ご協力をお願いします。フォームの始まりフォームの終わり